

皿倉の良い子たち

皿倉の良い子たち

手や足が ちよつとだけ悪くなった
良い子たち

ころんたら起きて、またころんでも

泣きたくなったら 歩きなさい

涙が出そうになったら

泣きじやくりながら歩きなさい

御飯が口からこぼれても

ハンが上手く使えなくても

誰が あなたを笑うでしょう

笑うものがあるならば

ちよつとだけ努力すればいい

笑った人を見返すために

皿倉山の良い子たち

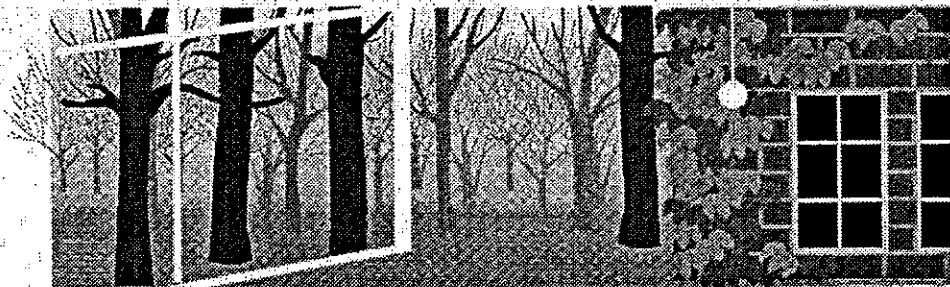
胸を張って歩きなさい

前を向いて進みなさい

悲しくなったら 星を見て

涙が出そうになったらなら

力いっぱい努力すればいい



十三年前、私は脊髄の病気から、下半身麻痺となった。毎日のリハビリはつらく、装具をはずして一本杖に歩けるまで、まる三年かかった。この十三年間、何が私を強く、ここまで勇気付けたかと言うと、私には肢体不自由児のカウンセラーをやったと言う誇りがあった。もつと重度の患者が、あの皿倉山へ登ったのだ。負けるな！ 負けたら子供達が笑う！ 上辺だけのアドバイスだったのか？ 子供達へ贈った言葉は、あれは形だけだったのか？ 自問自答する日々。かつて皿倉山で子供達と一緒に泣き笑ったあのほろ苦い日々。あれがあつたから、私は頑張れた。若さの貴重な体験であつた。

皿倉山の子供達。本当にありがとう。元気にしていますか。お姉さんも障害者になつたけど、負けずに頑張っているからね。

(朝日キャンプリーダー会機関紙「炊煙」より)